



# ロンドンブックフェア 2016

2016/5/25

今年も4月12～14日に開催されたロンドンブックフェアに参加してきました。ブックレビュー等でご紹介する原書を発掘するのはもちろん、最近では和書の売り込みにもさらに力を入れ入っていて、『クーリエ・ジャポン』のコラム「ニッポンの本を世界に売り込め！」でもブックフェアについてご紹介していますので、是非ご覧ください。

さて、ブックフェアに参加していてここ数年強く感じるのは、非英語圏からのコンテンツが英語圏でも認知され、世界のメインストリームに入っていくケースが、ある意味当たり前になってきていることです。数年前、北欧ミステリーがブームになってから、北欧のエージェントは英語の全訳を用意してブックフェアに持ち込むようになりました。日本からも『人生がときめく片付けの魔法』が世界的なベストセラーになり、今や類書やパロディ本がロンドンの書店店頭を賑わせています。

今回のブックフェアでは、Amazon Crossing (Amazon Publishing の翻訳出版専門レーベル) がスポンサーとなり、文芸翻訳にまつわるさまざまなセミナーを催していました。会場は熱気を帯びた編集者や翻訳者、エージェントでいっぱい。これも非英語圏の書籍に対する興味の表れのような気がします。10年ほど前には考えられなかったことで、翻訳出版が活発になるのはとても喜ばしい傾向です。

そのほかにもさまざまなトレンドや動きがありますので、ブックフェア期間中に現地で発行された雑誌の記事を、以下にダイジェストでご紹介したいと思います。

(注：筆者が適宜情報を追加した箇所があります)

## 翻訳書におけるジェンダーギャップ

『PW London Book Fair Show Daily』2016年4月14日(木)号

英語に翻訳される作品が増えているなか、原作者の男女比についての統計を公表したのが、出版社 Open Letter の代表で、Three Percent という翻訳書の現状を解説するブログの主宰者、Chad Post 氏。

ニッポンの本を世界に売り込め！ 第3回「ロンドン国際ブックフェア奮闘記」

Text&Photo by Koji Chikatani

2016.5.12



2008～2015年の8年間に英語に翻訳されたフィクションや詩は3,617作品あったが、そのうち女性作家によるものは1,004点で、全体の27.8%にとどまる。単年で見ると、2008年には23.3%だったのが、2015年には31.4%に増加してはいるものの、依然としてジェンダーギャップが存在している。

翻訳書の点数が多い出版社トップ9社——Amazon Crossing / Dalkey Archive / Europe Editions / Seagull Books / New Directions / Open Letter / Other Press / FDG / Atria——のうち、男性作家の作品より女性作家の作品のほうが多かったのはAmazon Crossingのみで、他の出版社では約80%の作品が男性作家によるものだった。

Post氏はこの要因として、出版社がエージェントや翻訳者から紹介される作品は男性作家のものが多く、また、男性作家の作品のほうがクラシック作品としての価値が高い、もしくは出版する価値があると思われがちであることを挙げている。

そして、こういった現状を改善するには、例えば女性作家の作品に助成金をつける、あるいは、翻訳書にジェンダーギャップが存在することをマスメディアが取り上げて、関係者の意識改善を促すべきだと提言する。

## 『New Books in German』が創刊20周年

『Publishing Perspectives』2016年春号

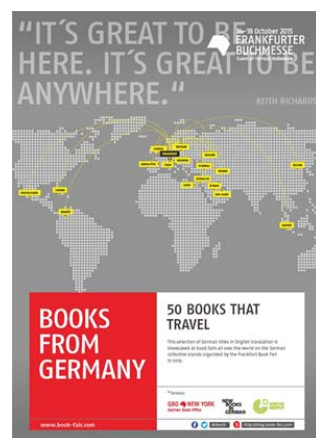
『New Books in German』（NBG）は、英米の出版関係者向けに現代ドイツ語文学を紹介する目的で1996年に創刊された雑誌で、年2回発行されている。立ち上げたのはイギリス人のドイツ語文学翻訳者Rosemary Smith氏と著作権代理人Tanja Howarth氏で、各号は、国際的にポテンシャルのあるドイツ語圏の作品紹介と翻訳者のエッセイなどで構成される。

今年のフランクフルトブックフェアでは記念号にあたる第40号をリリース予定で、「国際翻訳の日」の9月30日頃には、ドイツ、オーストリア、スイスの作家によるプログラムを含む祝賀会も計画している。ロンドンブックフェアで入手可能な第39号では、女性作家とフェミニズムを特集。

「過去20年間に、NBGが他言語に翻訳された現代ドイツ語文学に与えた影響は計り知れない」とNBGの編集者Charlotte Ryland氏は言う。例えば、創刊号で「忘れられた」作家、Hans Fallada氏を取り上げたところ、彼の『Alone in Berlin』（原題：Jeder stirbt für sich allein）は世界的ベストセラーに。また1999年に同誌が「華々しいデビュー」と称賛したJenny Erpenbeckは、現在では最高の現代文学作家と認められている。

NBGをサポートする団体は多岐にわたり、領事館や文化団体・協会も含む。特に、The Frankfurt Book Fair（FBF）とthe German Book Office（GBO）は創刊初期からさまざまなかたちでサポートし続けていて、2013年には、NBGとGBOが共同で、英訳出版されたドイツ語のフィクション、ノンフィクション、児童書のリスト「50 Books That Travel」を作成。このリストは、FBFのGerman collective standもしくはWEBから入手できる。

NBGの強みは翻訳資金提供だ。各号で取り上げられた書籍は、少なくとも部分的な翻訳資金提供を約束される。「アメリカでは、大部分の翻訳書は予算に限



りのある小規模の出版社から出版されます。特に翻訳文学書の売り上げは一般的に数千部と考えられており、このような出版社にとって補助金は著作権取得を決める要因になります」。GBO ニューヨークの責任者 Riky Stock 氏はそう語る。

## AmazonCrossing が翻訳書を拡大

『Publishing Perspectives』2016 年春号

今年はシカゴで行われるブックエキスポ・アメリカ。テーマ国はポーランドで、同国の作家 Zygmunt Miloszewski 氏が招聘される予定だ。氏のスリラー小説『Rage』（ポーランド国内で数カ月にわたり売上ランキング第 1 位）の英訳版は、今年 8 月に AmazonCrossing から出版される。

Crossing は Amazon Publishing の 14 のインプリントのうちの一つ。昨年のフランクフルトブックフェアで、今後 5 年間の予算が 1000 万ドル（約 11 億円）であることを公表すると、1000 以上の翻訳権の売り込みが殺到した。インターナショナル・チーフの Sarah Jane Gunter 氏はその反響を喜び、「我々の目的の一つは、従来翻訳出版されなかった言語の作品を発掘すること」と語る。

その言葉どおり、Crossing は昨年 10 月以降、下記 2 作品の著作権を取得した。

1. ギリシャのベストセラー作家、Lena Manta 氏の『The House by the River』。Crossing から 2017 年にリリース予定。
2. クロアチアの作家、Igor Štiks 氏の『Elijah's Chair』。2006 年、クロアチアの文学賞をダブル受賞した作品（Gjalski Award の年間最優秀フィクション賞と Kiklop Prize の年間最優秀文学賞）。

翻訳権の売り込みは、出版社やエージェント以外からも届く。例えば、スペインの作家で 2013 年の Gonzoo Prize で最優秀作家賞を受賞した Paul Pen 氏の作品を売り込んだのは、翻訳者の Simon Bruni 氏だ。その英訳版『The Light of the Fireflies』は今年 4 月にリリースされた。

Crossing はまた、昨年 11 月、英語作品をフランス語、イタリア語、スペイン語に翻訳するプロジェクトを実験的に開始。その一例として、アメリカ人作家 Robert Dugoni 氏の『My Sister's Grave』のスペイン語訳を 5 月に出版予定だ。また、ロマンス小説作家 Catherine Bybee 氏の 8 作品を、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語に翻訳した。

Gunter 氏曰く「素晴らしい物語はどこからでも生まれうる」。

## ロンドンブックフェア “Shakesperience (シェイクスペリエンス)”

『The London Book Fair Preview』ロンドンブックフェア特別号

もっとも重要な劇作家シェイクスピアの没後 400 年を記念して、シェイクスピアにちなんだトークとアクティビティ「シェイクスペリエンス」を企画した。目玉は The Hogarth Shakespeare (The Hogarth Press が企画する、英米の作家がシェイクスピアの戯曲の舞台を現代に移して語り直すプロジェクト) の著者たちによる「Author of the Day (今日の作家)」。その他、世界中の著者や役者による 8 言語のパフォーマンスや、シェイクスピアグッズも多数あり。ツイッターでも参加でき、サントラとシンクロしたデジタル版口ミオとジュリエットもある。



## The Hogarth Shakespeare

『The London Book Fair Preview』 ロンドンブックフェア特別号



Chatto & Windus の企画会議で、シェイクスピアの戯曲に基づく小説を作るという案が出たのが事の発端だった。シェイクスピア作品は現代にも通じ、普遍的な人類の洞察として愛されつつも、その難解さや非現実性、また、学校教育を思い出させることで敬遠されがちだが、現代的に語り直すことで、そういった問題を解決する糸口となるのではないだろうか？

市場ニーズを調査した後、出版社のパートナーを探し、作家たちにコンタクトを取った。多くの質問や丁寧なお断りを喰らったが、シェイクスピアの戯曲に特別な思い入れがあり、この企画に共感してくれた作家たちの反応は早かった。こうして、シリーズ案と、Anne Tyler が『じゃじゃ馬ならし』、Jeanette Winterson が『冬物語』を担当することを発表すると、メディアから大反響があった。

シリーズ案公表後には企画が加速し始め、他の 6 作品を担当する作家たちが次々に決まり、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーとのコラボレーションや、肖像画家 Ralph Heimans の活動にまで波及していった。

個々の作家の自由な創作でありながら、シェイクスピアの 400 年の歴史がそれを束ねる。読者、業界、その他多くの反響を得たことが、本文学的試みにおける最大の達成だった。同シリーズは、現在では 28 カ国 22 言語で出版されている。

### 翻訳者を「運転席」へ

『PW London Book Fair Show Daily』 2016 年 4 月 12 日(火)号

イギリスペンクラブ (English PEN) の Erica Jarnes 氏は 2006 年、出版社 Bloomsbury の編集アシスタントとして、飛び込みで売り込みにくる駆け出しの作家や翻訳者の苦労を目の当たりにした。

それから 10 年が経ち、著名な文学・翻訳賞やマーケティング戦略のおかげで翻訳書が注目を集めるようになったが、今なお編集者は、言語や文化の壁のせいで、イギリスやヨーロッパの外から獲得する作

品を決めあぐねている。ここでこそ翻訳者が重要な役割を果たせるのではと思うが、翻訳者の営業力も限られている。

そこで、English PEN は PEN Presents というプロジェクトを開始した。PEN Presents では翻訳者を「運転席」に迎え、毎月特定の言語圏から 6 作品を募り、イギリスの出版社に獲得候補として紹介する。この仕組みは翻訳者にのみ公開され、引き換えに高品質なサマリーを募り、厳しい審査を行う。審査終了後は、通過した翻訳者を祝福するイベントを行い、翻訳者は編集者と会うチャンスを得る。第 1 回目は EU 加盟国文化機関とチェコセンターとの協力で進められ、初の推薦作 6 点が選ばれた。

## 100%翻訳志向

『The Bookseller Daily at the London Book Fair』2016 年 4 月 14 日(木)号

イギリスでの翻訳書人気は増しているが、新たに参入した出版社の創立者 Deborah Smith 氏によると、勇敢なる者にはさらなる報奨が待ち受けている。

韓国の女性作家、韓江（ハン・ガン）氏の『The Vegetarian』（ブッカー国際賞受賞作）を英訳した Smith 氏の目標は、翻訳出版の常識を覆すことだ。翻訳者としての地位を確立した彼女が Tilted Axis Press を設立した背景には、素晴らしい作品があるにもかかわらず、英語圏では東洋文学の訳書が明らかに不足していることがあった。Tilted Axis は、『The Vegetarian』の版元 Portobello Books が Smith 氏にしてくれたように、駆け出しの翻訳者がこの生易しくない業界で長期的なキャリアを築くためのサポートを提供することを目的に設立された。

Tilted Axis は順調に作品を刊行しているが、過剰な業務拡大は望まないという。ただし、言語の拡充には重きを置いている。同社の強みは、他社がノーマークのアジアからベストセラーを獲得できることだ。著者と翻訳者を同等に扱うブッカー国際賞は、イギリス国内での翻訳書に対する意識を向上させている。Smith 氏は、韓国やインドネシアのように、これまで翻訳されてこなかった国の文学に英語圏の出版社が飛び込むことで、大きな収穫があると見ている。

近谷浩二  
小澤大介

(ご意見・ご感想はこちらまで [info03@trannet.co.jp](mailto:info03@trannet.co.jp))

Copyright(c) 2016 TranNet KK all rights reserved



株式会社トランネット  
〒106-0046 東京都港区元麻布 3-1-35  
VORT 元麻布 4 階  
<http://www.trannet.co.jp>